

**令和7年度 第3回半田市総合計画市民評価委員会
(第7次半田市総合計画改訂に係る市民評価委員会③) 議事録**

開催日時	令和7年9月12日(金)	9時30分～12時00分
開催場所	庁議室	
会議次第	【議題】 (1) 第3編 基本計画 第1章 (2) 第3編 基本計画 第3章 (3) 第3編 基本計画 第5章	
出席委員	委員長：千頭 委 員：鈴木、小柳、上野、岩橋、曾根、杉本、榊原、 伊藤、沢田、岩浪 ※敬称略	
出席職員	学校教育課長、生涯学習課長、地域福祉課長、健康課長、市民協働課長	
事務局	企画課長、斎藤、倉野、粉山	
	<u>(1) 第3編 基本計画 第1章 「学びあう育ちあう 自分らしさと夢を育むまち」</u> 【基本施策1 育ちの支援の改訂内容について学校教育課長より説明】 (委員) チャレンジ 2030 の項番5「子どもたちが学校生活でストレスや不安を感じたときに安心して過ごせる校内の居場所を整え、心穏やかに学びの場に戻れるよう支援します。」について、どのような取組を想定しているのか。 (学校教育課長) 主に不登校の子どもたちや他の生徒と一緒に授業を受けることが難しい子どもたちを対象としている。従来はマーキュリールームなど学校外に居場所を設けていた。今後は校内にも居場所を作っていきたいとするもの。半田中学校では、令和6年度から校内に教育支援センターを設けている。今後は他の中学校にも拡大していき、子どもたちの様々なニーズに応えられるようにしていきたい。 (委員) 市内の小中学校において、教室以外の児童・生徒の居場所はどの程度あるのか。 (学校教育課長) 校内教育支援センターという専用の場所があるのは、半田中学校のみ。そ	

	他の学校においても空き教室を利用して居場所を確保している。しかし、空き教室を不登校の子どものためだけに使用することはできないため、全体のバランスを取りながら考える必要がある。 学校外の居場所はある程度整ってきているため、今後は校内の居場所づくりにチャレンジしていきたい。 (委員長) 学校外の居場所づくりも引き続き進めていくということでよいか。 (学校教育課長) はい。 (委員) 関連個別計画の「学校教育 HANDA プラン」は総合計画策定時から掲載されている。計画策定時から現在までに学校を取り巻く環境は変化していると思うが、「学校教育 HANDA プラン」の内容は更新されているのか。 (学校教育課長) 現在の「学校教育 HANDA プラン」は令和5年度に策定した第2次の計画であり、定期的に見直しを行っている。 (委員) 公立保育園を民営化するメリットはなにか。 (学校教育課長) 例えば低年齢児の受入など保護者の様々なニーズに応えることができるようになることがメリットの一つである。 公立保育園だと、新しい取組を開始する際などは市内の公立園全体で検討していく必要があり、取組開始に時間を要するが、民間保育園だと単独で判断できるため、柔軟かつ迅速に保護者のニーズに対応できる。 (委員長) 成果指標の1つ目「将来の夢や目標を持っていると回答した児童生徒の割合」について、現在の数値を学校現場ではどのように考えているのか。 (学校教育課長) 学校内部でどのような話し合いがあったかまでは把握していない。 アンケートの回答は社会情勢に左右されることが多いと思う。市が施策を実施することで数値を上げることは難しいと考える。
--	--

(委員長)

学校の努力だけで数値を上げることが難しい指標だと思う。
この成果指標は全国学力状況調査を引用したものである。全国学力状況調査には、「学校が好きですか」という質問もあり、そちらの方が総合計画の成果指標に適しているのではないかと思う。
第8次の総合計画を策定する際にはこのような成果指標を検討してもよいかもしれない。

(委員長)

現状と課題の項番9において、学校の「統廃合」という言葉を使っているが、「再編」という言葉でもよいのではないか。

(学校教育課長)

検討する。

(委員)

放課後の居場所づくり事業について、今年度から横川小学校で始まったが、問題は発生していないか。
今後は各学校のなかにそのような場所を設置するのか。

(学校教育課長)

横川小学校について、特に問題は発生していない。
他校への展開については現在亀崎小学校の建て替えをしているが、これに合わせて放課後の居場所づくりを計画している。
今後も学校の建て替えに合わせて放課後の居場所づくりを拡大していく。

【基本施策2 学びの応援の改訂内容について生涯学習課長より説明】

(委員長)

基本成果指標「学習活動に取り組んでいる市民の割合」について、現状値と目標値に乖離があるが、目標値達成のために今後どのように取り組んでいくかについては計画上に記載されているか。

(生涯学習課長)

改訂にあたって、チャレンジ 2030 の項番1に学習スペースの整備について追加した。主に中高生の自主勉強を支援する。
また、委員の意見にもあったように、オンデマンド講座やオンライン講座の拡充を考えている。

	(委員長) 学習活動に取り組む時間がない３０代～４０代に対してどのような取組をするかが数値を上げるためのポイントになると思う。 (委員) ３０～４０代はまさにはたらく親世代である。今回の改訂にあたっては、はたらく親を応援するまちを改訂にあたって重視しているので、例えば現状と課題の項番２「働き方や生き方の多様化～リカレント教育の必要性が高まっています」の部分ではたらく親の学習機会の支援について強調するような表現があってもよいと思う。 (生涯学習課長) 検討する。 (委員) 仕事で英語やパソコンを使うことがあるが、そのようなことをオンラインで学ぶことができるとありがたい。 (委員) 福祉文化会館の学習スペースの利用状況はどうか。 (生涯学習課長) 利用者はほとんど高校生で半田中学校区と成岩中学校区の方が多い。市外から電車で来る利用者もいる。 (副委員長) 成果指標「学習活動に取り組んでいる市民の割合」について、市民アンケートの対象者に高校生は入っているか。 (企画課長) アンケート対象者は１８歳以上の方のため入っていない。 (副委員長) 年代によって学習活動に取り組んでいると回答する割合が異なると思う。学習活動に取り組んでいる割合が低い年齢層に対しての取組を推進するのか、高い年齢層をさらに伸ばすための取組をしていくのか、個別計画において、今後の進め方を検討できるとよい。 (生涯学習課長)
--	--

ご意見を参考に、個別計画において検討する。

（委員長）

年齢別のアンケート結果は分かるか。

（事務局）

10代から20代が4割程度、40代が3割程度、70歳以上が2割程度の方が学習活動に取り組んだと回答している。

（委員）

チャレンジ 2030 の項番2において「中学校の放課後活動として、地域と連携し、多様な活動に親しむ機会を拡充します。」とあるが、今後、中学校のクラブ活動は地域のスポーツクラブがメインになってくるのか。

（生涯学習課長）

スポーツクラブは昨年の9月からすでに地域と連携をとって取り組んでいる。文化部については、合唱と吹奏楽をメインに受け皿の選定を行った。今年度からは公民館で活動している団体や市民活動団体に対して中学生の受入れが可能か確認をしているところである。今後、保護者の皆様に情報提供をしたいと思っている。

（委員）

チャレンジ 2030 の地域開放型図書館の整備について、具体的にどのようなことか。

（学校教育課長）

学校の建て替えを進めていくなかで、学校図書館を地域の人でも利用できるような状態にできないかということを考えている。

（委員）

総合計画の冊子に様々な写真が使われているが、何の写真なのかがわかるようにキャプションをつけるとよい。

（事務局）

全ての写真にキャプションをつける。

（１）第３編 基本計画 第３章 「つながり助けあう 健康と笑顔を育むまち」

【基本施策１ 地域福祉の改訂内容について地域福祉課長より説明】

（委員）

ふくし井戸端会議はどのぐらい行われているのか。

（地域福祉課長）

昨年度は緑ヶ丘地区で行った。

（委員）

井戸端会議以外にも、地域に直接出向いて市民の声を聞くことを実施しているか。

（地域福祉課長）

各地域で地域住民の方が中心となってサロンを運営しており、市民の話を聞く中で、困りごと等がある場合はスタッフが専門機関に繋ぐという取組を実施している。

（委員）

地域ふれあい施設事業はリーディング事業から削除されているが、今後も地域ふれあい活動自体は継続していくということによいか。

（地域福祉課長）

地域ふれあい事業は自治区で継続して実施していただく。現在は市内５地区で運営している。

（委員）

成果指標の自立支援件数は相談があった件数なのか、支援が完了した件数なのか。

（地域福祉課長）

新規相談のうち、自立に向けて支援を行った件数であり、現在対応中のものも含まれる。

（委員）

成果指標の「高齢者への福祉施設が充実していると思う高齢者又はその家族の割合」が計画策定時より下がっている。この数値に関連して、現状と課題の項番３「団塊の世代が後期高齢者となる～」の文章を修正したという理解によいか。

（地域福祉課長）

はい。

（委員長）

この分野では社会福祉協議会との連携が必須である。現行の計画にも記載がないが、社会福祉協議会と連携してというような文言を入れてもよいのではないか。

（地域福祉課長）

検討する。

（委員）

成果指標の福祉施策が充実していると思う割合が下がっていることについて、半田市は「はたらく親を応援するまち」を推進しているが、子育てだけではなく高齢者への施策を推進することも、介護等で高齢者を支えている立場でもある、はたらく親の応援に繋がると思う。今後、数値を上げるための取組等は考えているのか。

（地域福祉課長）

市内の高齢者福祉サービス事業所等は充実していると考えているがそのことが伝わっていないため、地道に広報することが必要だと考えている。

（委員長）

制度自体は整っているが市の広報が不足していると考えているのであれば、そのことを強調するような文言をいれてもよいかと思う。

（委員）

外国籍市民を含めた高齢者が増えてきていると思うが、そのことについて現状と課題に記載しなくてよいか。

（事務局）

後ほど説明があるが、第5章基本施策2の共生社会において、外国籍市民への支援について、改訂にあたり修正して記載している。

（委員長）

介護職における外国籍市民の養成についても行政としての課題があるのではないかと思う。

（委員）

重層的支援体制の整備について、社会福祉協議会などの関連団体と連携して取り組んでいるということを基本施策に追加してもよいのではないか。

(地域福祉課長)
検討する。

【基本施策2 健康の改訂内容について健康課長より説明】

(委員)
チャレンジ 2030 において、喫煙率を2割減少としているがなぜ2割なのか。

(健康課長)
後日回答する。

(委員)
なぜ喫煙率を目標にしたのか。

(健康課長)
健康づくりは幅が広く、個別施策においては細かい取組を記載していないが、チャレンジ 2030 においては健康を維持増進するためのひとつの手段として取り上げた。

(委員長)
日本においてたばこが原因で病気にかかり早く死亡する方は年間10万人を超えている。世の中でこれほど健康寿命に影響をおよぼしているものは他にない。よって、喫煙率を下げることは健康寿命を延ばすことにつながる。

(委員)
チャレンジ 2030 の項番3に大規模なスポーツイベントを開催するとあるが、具体的な計画はあるのか。

(健康課長)
既に3×3等のイベントを実施しているが、どこでも、世代を問わずに参加できるスポーツイベントを想定している。具体的な取組は決まっていない。

(企画課長)
これまで、マラソン大会が半田市の最も大きなスポーツイベントになっていたが、最近ではマラソンに限らずグラウンドで様々なスポーツを実施するようなイベントになってきており、そういったものを今後は拡大してい

きたいと考えている。

（委員）

「大規模」の感覚は個人間で異なると思うので、表現を改めてもよいかもしれない。

（企画課長）

検討する。

（委員長）

予防接種事業のデジタル化について現状と課題に追加されているが、母子手帳のデジタル化についても実施するのであればそのことを第１章に記載してもよいかもしれない。

（事務局）

検討する。

【基本施策３ 医療体制の改訂内容について健康課長より説明】

（委員長）

知多半島総合医療機構と知多半島総合医療センターの名称が散見されるので、統一をした方がよい。使い分けるのであれば一定の根拠をもって使い分ける必要がある。

（健康課長）

検討する。

（副委員長）

個別施策において市民とかかりつけ医の繋がりを支援することについて記載がある。かかりつけ医をつくることについて、半田市の現状は十分にできていると考えているか。

（健康課長）

十分だとは思っておらず、今後も取り組んでいく必要がある。よって、個別施策にも記載をしている。

（委員）

基本成果指標に医療体制が充実していると思う市民の割合がある。医療機関の医師や看護師の充足度も大きく影響すると思うが、現状はどうか。

(健康課長)

医師や看護師の数は不足している。休日診療についても今後の体制について検討を進めている状況である。

(3) 第3編 基本計画 第5章 「互いを尊重し知恵と力を活かしあう豊かさを育むまち」

【基本施策1 協働の改訂内容について市民協働課長より説明】

(委員)

成果指標「協働のまちづくりが進められていると思う市民の割合」の指標が下がってきているが、今後はどのようにして数値を上げていこうと考えているのか。

(市民協働課長)

自治区の加入率が下がっていることや自治区の担い手不足が課題のひとつである。個別施策にもあるが小学校区単位での活動を推進するなど、自治区の負担軽減の可能性を模索していくなかで、数値を上げることができればと考えている。

(委員)

転入者に対して、自治区の加入は積極的に広報しているのか。

(市民協働課長)

転入者に対しては、自治区加入の案内を送付している。また、自治区加入案内のパンフレットを各自治区オリジナルの内容を掲載できるようなものに変えた。また、乙川中学校の総合学習において、自治区のことを学んでもらうような取組を検討している。幅広い年代に対して自治区への加入についてアプローチできればと思っている。

(委員長)

リーディング事業の広報推進事業を広報事務に修正しているが全体バランスを見ると〇〇事業にしたほうがよいのではないか。

(事務局)

予算事業名に合わせて修正をしたが、全体バランスを踏まえて改めて検討する。

【基本施策2 共生社会の改訂内容について市民協働課長より説明】

	(委員長) チャレンジ 2030 の項番4に働きたい人が働き続けられる環境づくりに取り組み、モデル事業を作るとあるが、既に県が行っている制度とは異なるということでしょうか。 (市民協働課長) はい。 (委員) 外国籍市民の内訳のグラフについて、合計値の記載はしないのか。 (事務局) 最終的に計画書を整えていくなかで、グラフの形式も整えていくので、現在の計画と同様に合計値を入れる。 (委員) チャレンジ 2030 の項番3「外国籍市民等が地域活動に参加できる仕組みづくりを行います」とあるが、現在の外国籍市民の地域活動への参加はどのような状況か。 (市民協働課長) 地域の盆踊りでの出店や避難所運営に参加している地域もある。まだ不十分であるためチャレンジとした。 (委員) チャレンジ 2030 の項番4モデル事業所づくりについて、現在はどのような状況か。 (市民協働課長) 先進的に取り組んでいる事業所とこれから一步を踏み出そうとしている事業所を繋げて交流や情報交換をしている。一步を踏み出す事業所を増やすための取組を昨年から今年にかけて行っており、次の段階に向けて検討を進めている。 【基本施策3 行財政の改訂内容について企画課長より説明】 (委員) チャレンジ 2030 の項番1でキャッシュレス決済の推進について記載がある。十分キャッシュレス化は進んでいると思うがチャレンジに挙げた理由
--	--

はなにか。

（企画課長）

キャッシュレス化はかなり進んでいるが、まだ不足している部分がある。例えば使用料や手数料の支払いについては、予約と同時に決済ができること、人がいなくても決済手続きができること、タッチ決済など複数のキャッシュレス決済の手段を導入することが市民から求められているため、今後も取組を進めていきたいと考えている。

（委員長）

市税収納率について、数値を上げるためにかかる人件費と比較すると現状値でもよいという考えもあるが、どのように考えるか。

（企画課長）

システムの導入などに多少の費用はかかるが、この数値を上げるために人件費を上げることは考えていない。

（委員）

チャレンジ 2030 の項番5にスタートアップ企業等との連携をしていくことが追加された。これはステーション Ai のパートナーシップ企業のことを言っていると思うが、半田市としてステーション Ai との関わりはどのような計画を持って進めていくのか。

（企画課長）

今年からステーション Ai に職員を派遣しており、具体的な方策はこれから考えていく。

スタートアップ企業との共同での取組については、取り組み数などの数値目標を持って進めていく考えである。

（全体終了）

（事務局）

事務連絡

本日いただいた意見については各課と調整のうえ、対応方針を改めて展開する。

議事録についてもホームページ掲載前に確認依頼をする。

次回の委員会について

	日時：令和8年2月10日（火）9時半から12時 会場：大会議室 内容：パブリックコメントへの対応確認
--	---